

# フィールド科学シンポジウム

21世紀農林業・越後から発進！  
～転機に立つ新潟の農業～

## 基礎講演

### 新潟の農業に期するもの

内藤 邦男 (林野庁長官)

#### 1. 新潟県農業の展開方向

佐藤 俊彦 (新潟県 農林水産部 技監)

#### 2. 新潟の農業を応援する

高橋 能彦 (新潟大学農学部附属フィールド科学教育研究センター 教授)

#### 3. 新潟の農業への関わり ～FC企画交流部の活動を振り返る～

福山 利範 (新潟大学農学部附属フィールド科学教育研究センター 教授)

#### 4. パネルディスカッション

座長: 伊藤 忠雄 (新潟大学農学部 教授)

1月24日(土)

午後1時半～午後4時半  
農学部C198講義室

**入場無料**



## 林野庁長官 プロフィール

内藤 邦男 ないとう くにお

昭和28年7月28日生まれ(55歳)  
新潟市西蒲区(旧西川町)出身  
新潟県立巻高等学校 東京大学法学部卒業  
農林水産省入省 経済局国際部国際経済課長  
総合食料局次長 大臣官房総括審議官 生産局長  
などを歴任し、現在に至る。

## 第5回 フィールド科学シンポジウム

### 「転機に立つ新潟の農業」

日本の食料生産基地として自他共に認める新潟県の農業は、今様々な意味で転機に直面している。トップブランド米のコシヒカリは、従来他の追随を許さなかったが、近年では北海道など他産地の低価格化・品質向上により楽観を許さない状況にある。また、三度にわたる天災により主に中山間地域の農林業が大きな痛手を受けた。復興は着実に進められているが、地域によっては先祖伝来の田畑を手放さざるを得なかったり、後継者不足や高齢化など、県土の7割を占める中山間地域では深刻な問題が生じている。また、食の安全・安心，食育，環境保全型農業など全国共通の課題も抱えている。

一方では、コシヒカリBLの育成や組合法人化など、課題解決に向けた対策が新潟県により着実に講じられている。地球温暖化などの環境変動が進行する中で、わが国の食料確保基地としての新潟県の重要性は今後ますます大きくなっていくと思われる。

本シンポジウムでは、地元西川町（現新潟市西蒲区）出身で農林水産省の経歴が豊富で、現在林野庁長官の内藤邦男氏を迎え、中央から見た日本の農業の中での新潟の農業に期待するものを語っていただく。また、新潟県から本県の農業の目指すもの、新潟大学農学部からは本県の農業を応援する大学発信の挑戦事例を紹介する。

日時：2009年1月24日（土） 13:30～16:30

場所：新潟大学農学部 C198 大講義室

#### プログラム

13:30－13:35 開会挨拶 大山 卓爾（農学部長）

13:35－14:15 基調講演

「新潟の農業に期するもの」 内藤 邦男（林野庁長官）

14:15－14:35 「新潟県農業の展開方向」 佐藤 俊彦（新潟県 農林水産部 技監）

14:35－15:05 「新潟の農業を応援する」 高橋 能彦（フィールド科学教育研究センター 教授）

15:05－15:20 休 憩

15:20－15:40 「新潟の農業への関わり～FC企画交流部の活動を振り返る～」

福山利範（フィールド科学教育研究センター 企画交流部 教授）

15:40－16:25 パネルディスカッション 座長：伊藤忠雄（農学部 教授）

16:25－16:30 閉会挨拶 福山利範（フィールド科学教育研究センター長）